2009
作品ナンバー0841

白磁｜井上萬二のわざ

記録
フィルム
カラー／35分
日・英語版

■企画
文化庁
■協力
東京国立博物館
東京国立近代美術館
佐賀県立九州陶磁文化館
鹿児島県串良町
香田陶土有限会社
井上萬二窯の皆さん

スタッフ
■製作
山本孝行
■脚本・演出
村山正実
■撮影
山屋恵司
■撮影助手
森　英男
■照明
本橋俊男
■照明助手
佐藤大和
■音声
荒井富保
■効果
帆苅幸雄
■タイトル
菁映社
■編集
吉田栄子
■ネガ編集
加納宗子
■選曲
山崎　宏
■録音スタジオ
アオイスタジオ
■現像
IMAGICA
■ナレーター
広瀬修子

文部科学省特選　2009年教育映像祭最優秀作品賞・文部科学大臣賞
映文連アワード2009ソーシャル・コミュニケーション部門優秀作品賞（準グランプリ）
2009年キネマ旬報文化映画ベスト・テン第８位

1995年（平成７年）、66歳のときに井上萬二（いのうえまんじ）は、重要無形文化財「白磁」の保持者（人間国宝）に認定された。
映画は、『白磁花形染麦彫文鉢（はくじはながたそめむぎちょうもんばち）』の制作工程を記録しながら、井上の高度なわざと創作性が結実していくさまと、井上の人生を振り返りながらその人となりを描いたものである。

「白磁」は、近世以降の有田において、主に染付や赤絵などの加飾の素地として発展してきた。「白磁は、形そのものが文様である」。井上萬二は、単なる素地にとどまらない白磁そのものの魅力を見出し、その美を追求してきた。
　見込みに麦の文様を施した八輪花型の鉢。九州、天草産の陶石（とうせき）を原材料とし、轆轤（ろくろ）で丸い鉢を成形した後、生乾きの時に口縁部を採寸して８等分にし、指を用いてくぼみを作り、輪花形に変形、さらにくぼみの内側に磁土を貼り付けてその先端を尖らせ、剣先（けんさき）で口縁部を削って鋭角的な表情を加え、やわらかな中にもメリハリのある造形となった。
　麦の文様の部分には、薄い呉須（ごす）が施されており、爽やかな青色が、白磁の白さを引き立てている。麦のモチーフは、厳しい環境に耐えて生きる生命の象徴である。『白磁花形染麦彫文鉢』の完成である。